

世界観にたって地域で仕事を創る（Think Global Act Local）
～地方の中小企業（弱者）の戦い方～

事業のご紹介



行動の裏側（問題意識）

「ポイント」

【平成29年5月1日現在（概算値）】

＜総人口＞ 1億2673万人で、前年同月に比べ減少 ▲20万人 (▲0.15%)

【平成28年12月1日現在（確定値）】

＜総人口＞ 1億2691万8千人で、前年同月に比べ減少 ▲17万人 (▲0.13%)

・15歳未満人口は 1574万5千人で、前年同月に比べ減少 ▲17万人 (▲1.07%)

・15～64歳人口は 7650万2千人で、前年同月に比べ減少 ▲67万7千人 (▲0.88%)

・65歳以上人口は 3467万1千人で、前年同月に比べ増加 67万6千人 (▲1.99%)

＜日本人人口＞ 1億2495万5千人で、前年同月に比べ減少 ▲31万2千人 (▲0.25%)



**【誰が、どこで、どのように作り、その食・時間
をどのように楽しみ、笑顔になるのか】**

北海道の食の磨き上げと地域商社（2007～2016）

2011年から道産品の磨き上げと販路開拓



<http://www.snow-jewels.biz/>



北海道の食の磨き上げと地域商社（2007～2016）



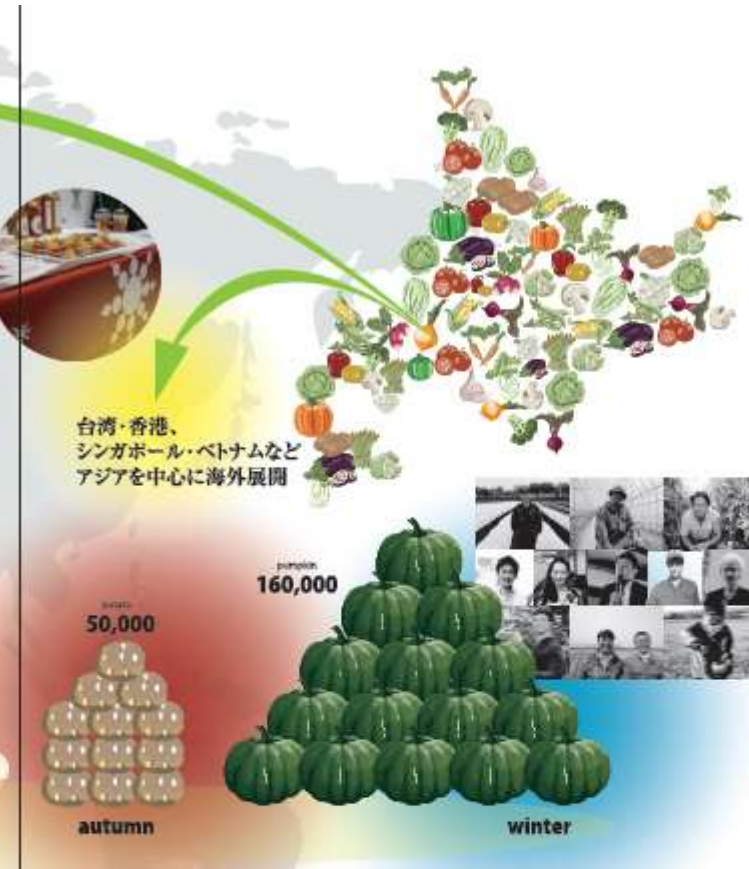
2016年：天塩産食材の磨き上げと販路開拓

<http://angle-media.jp/other/415>

2016年：伊達野菜の磨き上げと販路開拓

<https://youtu.be/AnIMsGXTk-E>

北海道の食の磨き上げと地域商社 (2007~2016)



北海道産の安心・安全な食を誠実に作る生産者と、宝石を扱うようにその価値を丁寧に磨き上げ、食卓に届けようと、デザイン・流通に携わる面々でSNOW JEWELSを担っています。

品目	春-SPRING 4月 5月 6月	夏-SUMMER 7月 8月 9月	秋-AUTUMN 10月 11月 12月	冬-WINTER 1月 2月 3月
絶品産地アスパラ	●			
ブロッコリー		●		
アイコ(ミニトマト)		●		
ラブラーさくら(ミニトマト)		●		
カラフルミニトマト		●		
とうもろこし(コーン)		●		
全米人形(カラフル人形)		●		
うまたまねが		●		
越冬たまねが		●		
越冬うまねが		●		
越冬うまねが		●		
わがままかぼちゃ		●		
濃く味付け		●		
越冬伊豆野菜		●		



取組

北の宝石野菜 Hokkaido Snow jewels

価格を自分で決められない市場流通ではなく、価格と量、品質に応じた相応しい規模の流通販路の開拓。そして、SNOW JEWELS自身も生産者として生まれ変わり、生産者と消費者をつなぐプラットフォームづくりとインターネット上で正しい食の知識をテーマにした食育研究事業「FOODサイエンス&カルチャーWEBマガジン・ANGLE」と体験型農場事業「FARMFES」などを通じて、商品の高付加価値化と高収益な農産業化を目指す。



軌跡

北の宝石野菜 Hokkaido Snow jewels

若者と農村を繋ぐ！ きたベジプロジェクト



口コミだけで20,000本売れる 「しろみつとろきび」



凍らないギリギリの寒さが引き出す 野菜の甘み「厳冬伊達野菜」と 農場アクティビティ



産地の想いと育てる喜びを学ぶ 「完熟ミニトマトと栽培育成キット」





ギュッと濃縮! いつもと違う、プレミアムな味。
原料となっているミニトマトは、過保護にせず、与える肥料を必要最低限に抑え、本来の生命力を最大限に伸ばしています。その生命力が一般的に流通しているトマトにはない旨み・酸味・香り・コク甘みを生み出し、それぞれが絶妙なバランスで凝縮され、おいしいミニトマトに育ちます。

北の宝石 プレミアム トマトジュース

北海道産フレッシュトマトを絞った無添加で煮詰めない独自製法。
トマト本来の旨み、酸味、香り、コク、深い甘みが特徴です。



化学肥料不使用、有機肥料で栽培、
手間と時間を惜しみなくかけた原料を使用。

寒暖差によって味覚が変わるといわれるりんご。
北海道の気候とマッチして、
非常に濃厚かつほどよい酸味を生み出します。
北海道の中でも生産地である余市のりんごの歴史は古く、
各農家で本格的な試植が始まったのは明治12年。
その余市でジュースを製造しています。



北の宝石 プレミアム アップルジュース

一瓶に6玉のりんごを皮ごと絞り、新鮮で安全な
原材料だからできる天然の「香り」と濃縮を
最小限に抑えた本来のりんごの「味」が濃い
特別なストレートジュースです。



土壌や気候に恵まれた道東から
安心できる野菜質を提供

美味しい野菜作りを、これからも子供達やその子供達、
未来に長く繋げられるよう、循環型農業、環境保全型農業と
いった持続可能な農業の取り組みを行なっています。
「自然が先生」のこの畑。その目で見て、その手で触れて
確かめながら育てています。

北海道オホーツク産の
きたあかりとカボチャ
旬と一緒に
ぎゅっと冷凍!

旬・葉・冷凍 マルじゃが
旬・葉・冷凍 きりかぼ



北海道で輝く商品に魅せられて Snow Jewels Selection

北海道の優れた素材、産地、工法により
生み出された高品質な商品を厳選。



北海道産 有機 黒千石大豆

●有機黒千石茶(温茶・冷茶)
●黒ロール・白ロールケーキセット



販路拡大：畑の広告事業導入による定期売上の確保

HOME | ABOUT SERVICE | 農場一覧 | FAQ | お問い合わせ

作物で探す エリアで探す 開始時期 収穫時期 フリーワード

--選択なし-- --選択なし-- --選択なし-- --選択なし-- or なし 検索

全ての農場一覧 1-12 / 48件

おすすめ順



ご契約から流れ



ファームフェスの取組

<https://www.farmfes.com/>

外国人観光客向けのサービス (アイススターホテル)



HOKKAIDO
ICE STAR HOTEL



2050年の北海道の迎える局面

北海道総合開発計画の要旨

第1章 計画策定の意義

第1節 北海道開発の経緯

- ・国全体の安定と発展に寄与するため、特別な開発政策の下、北海道開発を推進。
- ・食料品等の輸出倍増、外国人観光客数100万人突破等の成長産業の萌芽。他方、経済・人口は縮小傾向。ネットワーク未整備区間、地域コミュニティ維持に係る懸念の存在。

第2節 我が国を取り巻く時代の潮流

- (1)本格的な人口減少時代の到来 (2)グローバル化の更なる進展と国際環境の変化
- (3)大規模災害等の切迫

第3節 新たな北海道総合開発計画の意義

- ・北海道開発の基本的意義：北海道の資源・特性を活かして、国の課題の解決に貢献。
- ・人口減少・高齢化の急速な進展等により、食や自然環境など北海道の強みを提供し、我が国全体に貢献している「生産空間」の維持が困難となるおそれ。
- ・来たるべき10年間は、「生産空間のサバイバル」「地域としての生き残り」を賭けた重要な期間。
- ・また、北海道新幹線開業、高速道路網の道東延伸、2020年オリパラ等を地域の飛躍の契機となし得る期間。
- ・これらの機会の活用によって、本格的な人口減少時代にあっても活力を失うことなく人々が豊かな暮らしを送ることのできる地域社会の先駆的形成を図る。

第2章 計画の目標

○ キャッチフレーズ：「世界の北海道」

○ ビジョン：2050年を見据え、「世界水準の価値創造空間」の形成

《3つの目標》

(1)人が輝く地域社会 (2)世界に目を向けた産業 (3)強靱で持続可能な国土

第4章 計画の主要施策

第1節 人が輝く地域社会の形成

(1)北海道型地域構造の保持・形成に向けた定住・交流環境の維持増進

- ①基礎圏域の形成 ③地方部の市街地 ⑤札幌都市圏
- ②地方部の生産空間 ④基礎圏域中心都市 ⑥国境周辺地域の振興

(2)北海道の価値創造力の強化に向けた多様な人材の確保・対流の促進

- ・ 共助社会づくり、「活動人口」の確保
- ・ 地域づくり人材の発掘・育成
- ・ 北日本や海外との「人の対流」

(3)北方領土隣接地域の安定振興 (4)アイヌ文化の振興等

第2節 世界に目を向けた産業の振興

(1)農林水産業・食関連産業の振興

- ①イノベーションによる農林水産業の振興 ③「食」の海外展開
- ②「食」の高付加価値化と総合拠点づくり ④地域資源を活用した農山漁村の活性化

(2)世界水準の観光地の形成

- ・ 世界に通用する魅力ある観光地域づくり、観光旅行消費の一層の拡大
- ・ 外国人旅行者の受入環境整備
- ・ MICEの誘致・開催促進と外国人ビジネス客等の積極的な取り込み
- ・ インバウンド新時代に向けた戦略的取組

(3)地域の強みを活かした産業の育成

- ・ 北の優位性の活用
- ・ 産業集積の更なる発展
- ・ 産業を支える人流・物流ネットワークの整備等
- ・ 地域消費型産業を始めとする地域経済の活性化
- ・ 域内投資等の促進

北海道開発局2015年計画より抜粋

福祉・観光産業というイタリア型モデルの社会構造に